

文献調査の進捗状況

～ NUMO玄海交流センターだより ～

第2回「対話を行う場」で、文献調査の現在の状況をご説明しました。

《現在の文献調査の進捗状況》

*説明資料はNUMOのHPに掲載

- 「①文献データの収集」のうち**主な文献・データ収集は完了**しています。
- 不足している必要な情報について**範囲を広げて収集**しています。
- 「②読み解き」を**並行して実施**しています。

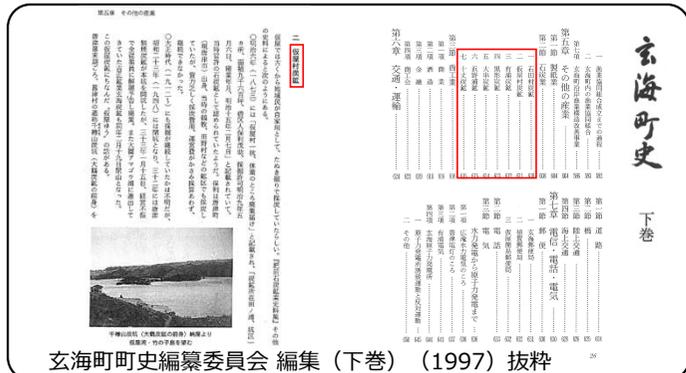


《範囲を広げた収集の内容》

地名・地域名などのキーワードに基づいて、関連する書籍や論文を収集しています。

例：玄海、東松浦、佐賀県、北西九州、北部九州、唐津、壱岐、佐世保、伊万里、牟婁、飯屋、有浦、新有浦、石田村、大串、浜野浦釜、十丈 など

《地域の図書館等で収集した文献・データの例：玄海町史》



●玄海町史には過去に存在していた炭鉱を紹介

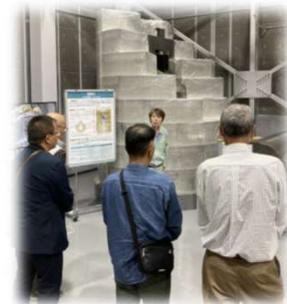
このお便りは、玄海町における高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する文献調査の開始に伴い、原子力発電環境整備機構 (NUMO/ニューモ) から町民の皆さまへ調査に関する情報をお知らせするものです。

@地層処分事業関連施設の視察・見学会を開催

町内有志の方々が、6月中旬に北海道と青森県の地層処分事業の関連施設を視察されました。

参加された方々は説明に対し熱心に耳を傾け多くのご質問をされました。

今後も視察及び見学会を通じ、町民の方々に地層処分事業を知っていただく機会を数多く設けていきたいと考えております。



JAEA幌延深地層研究センター

《関連施設》

JAEA幌延深地層研究センター(北海道幌延町)

概要：高レベル放射性廃棄物の地層処分技術に関する研究開発を実際の深地層に行っている施設

日本原燃(株)原子燃料サイクル施設(青森県六ヶ所村)

概要：原子力発電所から発生する使用済燃料の再処理や低レベル放射性廃棄物の埋設処分、高レベル放射性廃棄物の貯蔵管理等を行っている施設

@玄海町の中学生がNUMO東京事務所を訪問

毎年、町が開催している中学生夏休みエネルギー体験ツアー（東京近郊）にて、町内の中学生が東京都港区にあるNUMOの事務所を訪問されました。

事務所では、地層処分事業の説明や緩衝材として使われるベントナイトを使った実験などを体験していただきました。



NUMO事業の説明

現在、玄海町で進めている文献調査で収集した地質図や玄海町の歴史的な書物を紹介し実際に見ていただきました。

地元の地質や歴史などを知っていただく良い機会となりました。



文献・データ (地質図)

お知らせ

【公募】次回の「対話を行う場」に参加してみませんか

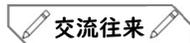
「対話を行う場」実行委員会事務局

- 開催は平日の夜に2時間ほどを予定しております。
- 参加者は町民対象とし1回あたり20名程度、うち5名程度の方を公募しております。
- 次回開催は10月頃を予定しております。

○下記の「問い合わせ先」へお申し込みください。

なお、開催日等が決まりましたら、改めて皆さまにお知らせいたします。

今年の暑さは異常でしたが、近頃、朝晩は若干ながら涼しくなりました。4月の当センター開所後、現在まで数多く町民の方にご訪問いただいております。職員は一時期流行した“おもてなし”の心を持って皆様の訪問をお待ちしておりますので、是非、足をお運びください。(編集者 G)



交流往来

問い合わせ先：NUMO（原子力発電環境整備機構）玄海交流センター ☎ <0955> 52-5011

第2回「対話を行う場」開催報告

「対話を行う場」は玄海町の皆さまに文献調査の進め方や進捗状況及び地層処分事業について“知っていただくこと”“意見交換していただくこと”を目的としており、先日第2回目を開催しました。

当日の様子は、ケーブルテレビ「チャンネル玄海」にて放送するとともに、NUMOのホームページにて公開いたします。

開催結果の概要

日 時	2025年7月29日(火) 18:00~20:25
会 場	玄海町役場 4階大会議室
参加者	17名
進行役	吉田まりえさん(九州の暮らし創造研究所代表)
主催	「対話を行う場」実行委員会 八島委員長ほか3名
オブザーバー	玄海町、経済産業省



当日のプログラム

開会・実行委員会挨拶

情報提供：文献調査について
文献調査の進捗状況

グループ討議 (非公開)

ご意見・ご質問への回答
(非公開)



グループ討議の様子

頂いたご意見・ご質問(一部)

「対話を行う場」で頂いた主なご質問と回答

① 文献調査は何箇所で行うのか。

先行する諸外国においては5~10箇所程度の候補地から処分地を選定しています。我が国における処分地選定プロセスにおいて文献調査の実施箇所数は特に定めておりませんが、諸外国と同様、複数地点から絞り込む形が望ましいと考えています。
《回答：経済産業省》

② 処分場は、一ヶ所でのよいのか。容量は足りるのか。

処分費用のスケールメリットを考慮し40,000本以上のガラス固化体を処分できる施設を1ヶ所建設することとしています。国内の使用済燃料を全て再処理した場合、既にガラス固化体として管理されているものと合わせて、合計で約27,000本相当が存在しますが、100万kW級の原子力発電所が1年間稼働した時の発生量は20~30本程度ですので、ただちに足りなくなるようなことは無いと考えています。
《回答：NUMO》

③ 原子力発電を始める前に処分の問題を考慮しておくべきではなかったか。

高レベル放射性廃棄物の処分方法は商業用原子力発電所が運転を開始した1966年よりも前の1962年に検討が開始されています。そのうえで、1976年より地層処分の研究を開始し、2000年に我が国でも地層処分が技術的に実現可能であると評価されたところであり、国際的にも地層処分が現時点で唯一実現可能な方法であるとの共通認識となっています。
《回答：経済産業省》

この他にも多くのご意見・ご質問などを頂きました

① 「ご意見」

- 電源立地自治体であるため、文献調査の受け入れは当然だと思った。
- 玄海町では処分場の建設に必要な面積がとれないと思う。
- 地点選定に長く時間がかかることがわかった。
- 国が決めた方が早く進む。国は責任をもって最後まで面倒をみて欲しい。

*ご質問への回答は、NUMOのホームページに掲載いたします。

ご質問への回答集や情報提供資料はこちら

NUMOホームページ「文献調査：佐賀県玄海町調査の状況と対話の記録」
https://www.numo.or.jp/chisoushobun/survey_status/genkai/



NUMO
ホームページ

時間の都合で未回答になった質問

① 文献調査により収集する地質図等の資料から鉱物資源の有無が読み取れるのか。

地質図等の文献の中には、過去に行われた資源探査(岩石の観察や化学分析、電気・磁気等を用いた探査等による調査)や鉱物資源の採掘実績に基づき、鉱物資源の分布が示されたものもあり、その文献を精査することで“どこにどれくらい”“どのような”鉱物資源が分布しているかを読み取れる場合もあります。

② 現時点において玄海町に埋蔵する可能性がある鉱物資源とは具体的に何なのか。

文献調査では、経済性が高い鉱物資源を避けることとしています。資源の分布のみの可能性の観点では、科学的特性マップで示されている石炭があります。石炭及びその他の資源の分布やそれらが経済性を有して避けるべき場所となるかについては文献を幅広く収集し、目下、それらの読み解きを進めているところです。

③ 核燃料サイクルは破たんしているのでは。

我が国は①高レベル放射性廃棄物の減容化、②有害度の低減、③資源の有効利用等の観点から、使用済燃料を再処理し、回収されるプルトニウム等を有効利用する核燃料サイクルの推進を基本的方針としています。サイクルの中核を担う「六ヶ所再処理工場」は、2013年に設けられた原子力施設に対する新しい規制基準への適合性審査に対応することが求められており、竣工に向けて審査対応の進捗管理や必要な人材確保などについて、官民一体で責任を持って取り組んでいます。

実行委員会より皆様へ



実行委員会
佐伯委員

去年の4月に町が文献調査を受け入れました。それまで『核のゴミ』や『地層処分』といった言葉は一度も聞いたことがありませんでした。そして、その後にNUMOの方から過去に婦人部で活動していた私に「町民の方のご意見をお伺いする場所を設けたい」という話がありました。

私は町内の女性の方と一緒に勉強したいという思いから実行委員を引き受けることとしました。玄海町には原子力発電所があり、そこで暮らしている私達でも知らないことがあると思います。町民の皆さん、一緒に勉強してみませんか。